

自立活動だより

No 5

文責：自立活動支援センター
広報係

令和6年10月発行

夏の間、補聴器や人工内耳は、汗まみれになっていたはずですが、汗には塩分を含みますので、故障の原因となります。こまめに拭き取ることを何度もお伝えしてきました。涼しくなってきたこの時期、今一度チェックをお願いします。

補聴器の電池ボックス内や人工内耳の本体と電池の接続面などを綿棒で丁寧に拭き取ってください。

また寝る前には、電池を外して乾燥器または乾燥ケースに入れてください。乾燥ケース内のシリカゲルは、色が変わったら交換です。通常は青から赤に変わったら交換です。

併せてイヤモールドのお掃除もお忘れなく！。耳垢で音道が詰まっていますは、補聴器の機能を果たせません。週に1回は、きれいにしましょう！！

また、子供は成長しますので、耳型も変わります。個人差はありますが、年に1回程度は作り替えが必要と思われます。



元の色：青色



吸湿後：ピンク色



<幼稚部の自立活動>



幼稚部では、鏡の前で教師と並んで顎や唇、舌などを動かして、正しい発音ができるように「お口の体操」をしています。また、ミルクせんべいを口の周りに貼り付けて、舌を動かしてとる活動や小さなボールを吹き合せて、息づかいの学習など、遊びの要素を取り入れながら、楽しく活動をしています。

<情報提供>

① アップルの「AirPods Pro 2」が「聴覚補助機能」を持った

「アップルは「AirPods Pro 2」で、聴力をサポートする「ヒアリング補助機能」を追加するアップグレードを実施し、Bluetooth イヤフォンと聴覚補助の両方の役割を果たす製品を提供することとなりました。既存のイヤフォンに聴覚補助技術を追加するという点が、一番革新的なポイントだと記事は伝えています。



例えば、ユーザーは iPhone で随時聴力テストを受けることができます。テストでは異なる周波数や音量がイヤフォンを通じて各耳に送信され、音が聞こえたら画面をタップする。数分後には聴力のオーディオグラムが作成され、それを使って AirPods Pro 2 が聴覚補助デバイスとして適切に設定されるそうです。ただ処方箋が必要なタイプの補聴器ほどの精密さはないだろうとのことですが、9月12日、米国食品医薬品局（FDA）は、アップルの「ヒアリング補助機能」を初の市販補聴器ソフトウェアデバイスとして承認したそうです。

引用元

<https://wired.jp/article/apple-airpods-pro-over-the-counter-hearing-aids/>

② 新パトカー 光り方工夫 聴覚障がい者に配慮

警察庁は、光り方を工夫し、緊急走行中か通常の防犯活動中かを判別できる新たな警光灯を搭載したパトカーを全国に配備するとのこと。

従来は発光パターンが1種類しかなく、車を運転中の聴覚障がい者が緊急走行なのか防犯活動中なのか区別がつかないことから「全日本ろうあ連盟」が2012年頃から導入を要望していました。

新たな警光灯は、緊急走行中は従来通り0.5秒周期でライトが回転しながら光るのに対して、通常時は2秒周期で点滅し「蛍の発光をイメージし、穏やかに光る」（警察庁担当者）。24年度内から順次配備するが、全国への配備には数年かかる見通しだそうです。

引用・参考 福島民報新聞 2024年9月26日朝刊



<福祉制度の話>

<日常生活用具の申請>

補聴器や人工内耳以外に以下のものも該当になります。

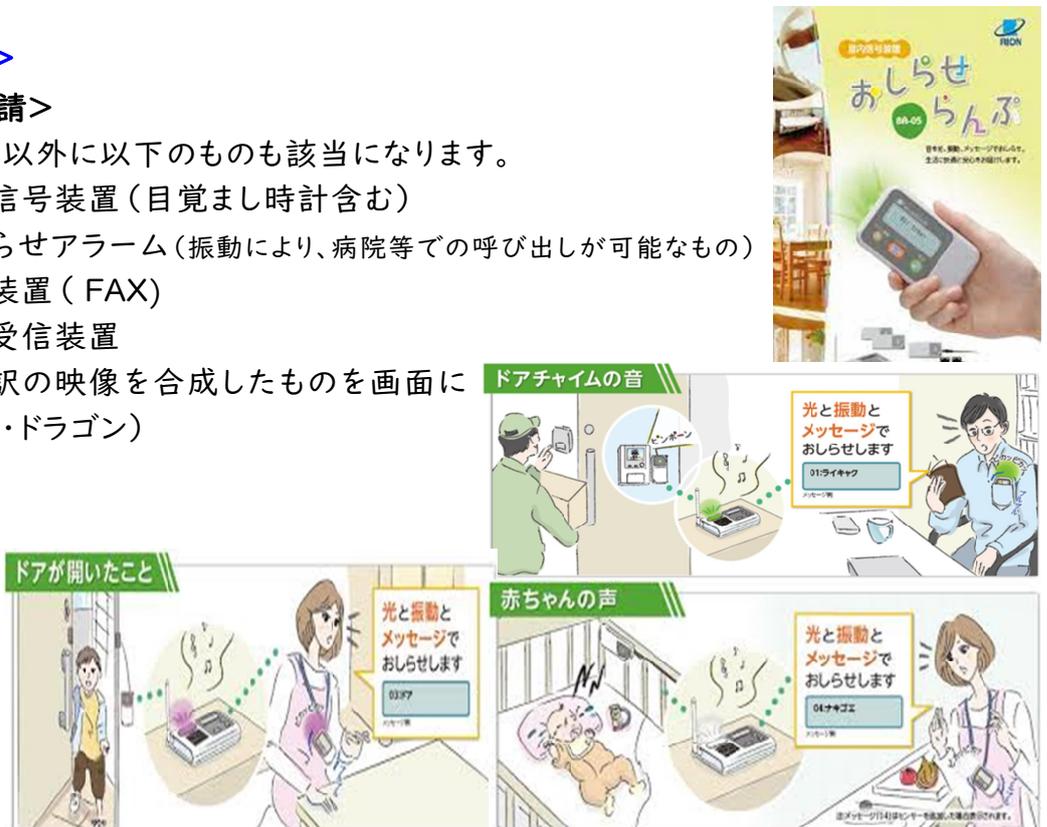
- ・聴覚障害者用屋内信号装置（目覚まし時計含む）
- ・聴覚障害者用お知らせアラーム（振動により、病院等での呼び出しが可能なもの）
- ・聴覚障害者用通信装置（FAX）
- ・聴覚障害者用情報受信装置

（字幕および手話通訳の映像を合成したものを画面に出力する装置・アイ・ドラゴン）

[申請に必要なもの]

身障者手帳

- ・同意書
- ・本人の確認書類



詳細は各市町村のホームページ等でご確認ください。

（H,K）